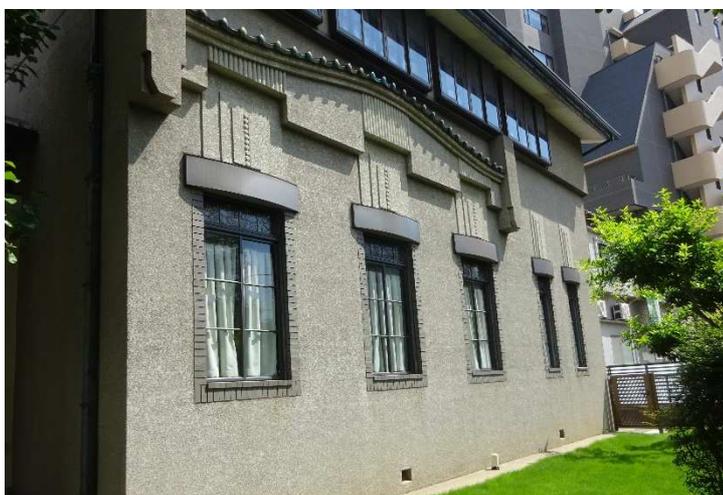
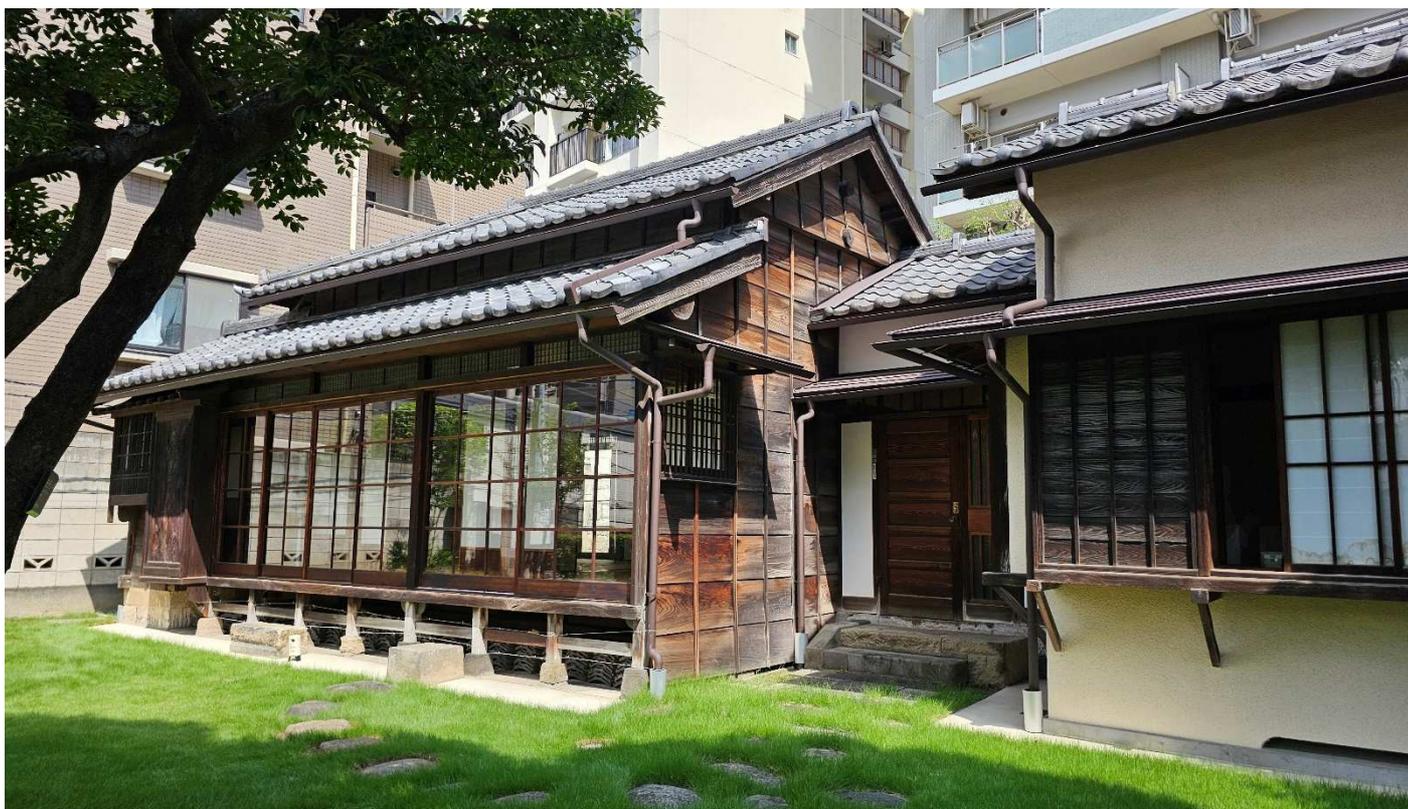


ホワイエ *Foyer* イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo 630

2024.10



2024年10月1日（毎月発行）定価200円 630号通巻第630号第54巻第10号発行/新建築家技術者集団東京支部
発行人/杉山昇 〒162-0811 東京都新宿区水道町2-8 長島ビル2F tel.03-3260-9810 fax.03-3260-9810
ホームページ <https://nu-ae.com/tokyo/> E-mail shinken-tokyo@group.email.ne.jp

03	会員通信	伊藤 寛明
04	神宮外苑再開発見直し案 JSC 公開ヒアリング 報告	山下 千佳
06	神宮外苑再開発事業者発表について	石原 重治
07	台風 10 号避難所で過ごした報告その 2	川田 綾子
08	地球温暖化について考える 第 47 回	渡辺 政利
10	鋸屋根に魅せられて	吉田 敬子
12	新入会員歓迎会の報告	山下 千佳
13	ドイツ流「まちを創ること」のすすめ - 住民参加の日独比較	
14	アジアニュース No.21	T N

今月の表紙 提供： 山下千佳

豊島区立「鈴木信太郎記念館」20世紀前半のフランス文学・語学の研究体制を確立した鈴木信太郎氏の旧邸を改修・整備した建物。1918年居住以降、数度の増改築を経て現在の三棟になった。増改築を物語る資料として図面や書類も展示。1928年には鉄筋コンクリート造の書斎も建てられ、1945年の城北大空襲罹災に際し蔵書の焼失を防いだ。とても良い建物と空間です。

Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

東京支部

- ◎09/27 金 18:30 新入会員歓迎会 @住まい・まちづくりデザインワークス
- ◎10/08 火 18:30 幹事会 @新建事務所
- ◎11/09 土 14:00 ドイツ流「まちを創ること」のすすめ 住民参加・日独比較
講師：水島信氏 @ 立教大学池袋キャンパス
- ◎11/12 火 18:30 常任幹事会 @新建事務所
- ◎12/10 火 18:30 常任幹事会 @新建事務所

全国

- ◎09/10 火 19:00 研究集会・環境分科会 第2回プレ環境分科会 @ZOOM
- ◎09/14 土 10:00 全国幹事会 @ZOOM
- ◎09/23 月 13:30 研究集会・環境分科会 第3回プレ環境分科会 @ZOOM
- ◎11/30 土-12/2 月 第33回全国研究集会 @奈良女子大学

会員及び交流団体

詳細は（ ）に記載された会員へお問い合わせください。

- ◆10/03 木 18:30 一木会「ベトナム旅行のアルバムより」 ゲスト：山下千佳氏（杉山） @としまち研
- ◆10/05 土 14:00 住民自治が育む地域の防災・減災力 みやぎ震災復興研究センター（山下） @ZOOM
- ◆10/19 土 13:30 2024 住研集会「自治体住宅政策のあゆみとこれから～居住保障の実現へ」（坂庭）
@新宿区・若松地域センター+ZOOM
- ◆10/24 木 19:00 千年をかけてたどり着いた力を消耗させる耐震（金田） @DNP プラザ
- ◆11/07 木 18:30 一木会「任意後見制度など」 ゲスト：赤羽彩美（杉山） @としまち研
- ◆11/10 日 13:00 全国災対連「災害対策全国交流集会」 @ZOOM
- ◆11/16 土 11:30 憲法フォークジャンボリー（村上） @北区滝野川会館
- ◆11/21 木 15:00 第17回自然流の会勉強会「日本人の生活と神道」（柳澤） @海老名市文化会館 351
- ◆12/08 日-09 月 第30回全国建設研究・交流集会 新建協賛
- ◆12/14 土 14:00 imaginepeace 音楽のつどい（千代崎） @板橋区立グリーンホール 2階



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！ foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp

●千葉県の外房・安房鴨川の川代地区にて 棚田のオーナー制度に仲間と参加して早18年、今年も春の田植えから月一の草刈りを経て無事、稲刈り収穫してきました。毎年同じことをやっても自然が相手だと一度として同じ年はないことを実感。今年は迷走した台風10号のせいで前日までの1週間雨が降り続き、田んぼに溜まった水が抜けず、稲刈り作業は今までにない程苦戦しました。（私も始めた30代後半と比べて体力の低下も実感）

加えて、猪による被害もあり、自然との共生なんて言ってもらえない「脅威」すら実感。拠点としている家の庭先でも、それまで鳴き声は聞こえていたけれど近年繁殖し続けているキョンの姿も、間近に確認しました。2頭いたから「キョンキョンに会えた」等と言っている場合ではない、彼らの生息域がすぐ近くまで来ていることも実感。

それでも昨年と変わらぬ量のお米を引き取り、今夏の米不足の報道や実際に米の値段も（鴨川でさえ）値上がっているのを見るにつけ、ナンダカナーと思う日々です。



●稲刈り前の草刈りに行った時 木更津のクルックフィールズ内にある「地中図書館」（中村拓志氏設計）へ立ち寄ってきました。洞窟・洞穴のような外観のない建築、思ったよりも小さくコージーかつ楽しく、久しぶりにワクワクする素敵な空間でした。

現在、フィリピン・マニラ郊外で構想中の住宅も、温熱環境的に土の中に埋めて断熱することを考えていて、その参考になるかなと思ったのですが、この猛暑の中でエアコンは稼働、地中であることの効果としては「あるのではないかな」と思ったくらい。

全体のフィールドに入るために、会員登録とか面倒くさいことはありましたが、牛舎があったり、ハイジみたいな巨大なブランコがあったり、BBQが出来たり、コテージに泊まれたりと、野外活動が好きな家族のためのオシャレなテーマパーク的な感じ。道端に仕込まれているスピーカーから常に流れている音楽には辟易しましたが、時間と興味と体力とお金がある方は行ってみて下さい。（ハードル高っ！）

でも、地中図書館は本当に良かったです。そこに一日中居られる感じ。



神宮外苑再開発 見直し案 JSC 公開ヒアリング 報告

山下千佳

9月17日(火)14時~16時、神宮外苑再開発計画見直し案について「JSC(日本スポーツ振興センター)公開ヒアリング」が、参議院議員会館101会議室で開かれました。今回のヒアリングは、9月9日に三井不動産、JSC、明治神宮、伊藤忠商事の4事業者が共同で発表した再開発計画の見直し案を受けて、日本共産党参議院議員 吉良よし子事務所などが主催して、独立行政法人JSC建設部企画調整役の三本氏とJSCを所管するスポーツ庁の担当者を迎えておこなわれました。

新建東京支部からは岩見良太郎さん、石原重治さん、小林良雄さん、千代崎一夫さん、柳澤泰博さん、山下千佳が参加しました。

見直し案の骨子は「1) 施設計画の工夫等による伐採本数の削減等及び新植本数の増加により、再開後の樹木本数が400本増加し、2304本となる 2) 新野球場棟のセットバック幅を約10.3m拡大し、約18.3mにする方針」で、JSCとスポーツ庁への質問を事前に提出しました。

はじめに会場から3人の方が発言をしました。有志ネットで中心になって活動している渋谷区在住の角井さんは「具体的な移植方法が示されていない。数字合わせの伐採計画で小手先の見直しに過ぎない。秩父宮ラグビー場へのアプローチのイチョウや野球場の配置などもまったく示されていない」と指摘しました。新宿区にお住まいの大澤さんからは「地球温暖化の原因であるCO2の排出への影響について、子どもたちの未来のためにも持続可能な社会をつくる責任があり、工事中のCO2排出や建て替えによる環境負荷を考えるべき」と発言されました。



都市計画の専門家として、岩見さんは「公園を対象に再開発を企てていることから様々な無理が生じている。都市公園を対象とした市街地再開発というのは前代未聞で、東京都は公園と街づくりは両立しようとしているが、これはあくまでも開発が目的にすぎない。容積率が400%から700%に引き上げられたことや、ラグビー場が公園地域から除外され高層ビルの建設が可能となったことなど開発のために手が打たれてきた。ホテル付きの野球場は、イベントにコンセプトの軸足を移し、稼ぐために利用することは公園の健全さを失う」と鋭く述べました。

3人の発言に続けて、秩父宮ラグビー場は築76年経っており老朽化が進んでいるので建て直しが必要といわれてきた問題に対して、ラグビーファンの大林さんは「76年というのはもともとの東京ラグビー場のグラウンドができてからのことで、メインスタンドは1976年完成で築47年であり、日建設計による耐震診断のおいても大きな問題はないとされている。北スタンドは1988年に構造新基準で造られたもので、耐震性に問題がないという結果も出ている」と発言したのに対して、JSCの三本氏は「耐震上は大丈夫だとしても、設備、利便性、バリアフリー対応から老朽化を何とかしなければいけないと判断している。築76年という数字については修正を検討する」と回答しました。

事前に提出していた質問について

Q1. ラグビー場や神宮球場等の建設計画の詳細、樹木の移殖・新植の具体的内容・計画をいつ示すのか

A1. JSC : PFI (注 1) が進めているところで現時点では未定

Q2. 新ラグビー場の建設計画の変更は、都市計画決定や市街地再開発事業の施工許可の前提となった企画提案や施工認可申請の内容と異なる。都市計画決定や市街地再開発事業の施工認可との関係は？

A2. JSC : 異なっている部分については法令に従って必要な変更する。

Q3. 公表文書にある「セカンドオピニオン」は、4列イチョウ並木の西側1列の調査と保全策を対象とするものであり、その他のエリアの樹木を対象としていない。JSCとして新ラグビー場整備が周辺の樹木に与える影響についてセカンドオピニオンを求めるべきではないか

A3. JSC : 東京都の環境影響審査を終了している、改めてセカンドオピニオンを求めるつもりはない。

Q4. 事業実施に向けた今後の手順、手続き、段取りなどと住民説明会がいつ開かれ、方法、対象について、また専門家との協議を実施する予定はあるのか。

A4. JSC : 事業者としては審査会で対応してきたので、今後行政手続きの中で適切に対応してゆく。

(注 1) PFI (Private Finance Initiative) とは「民間の資金と経営能力・技術力(ノウハウ)を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法」のことで、神宮外苑再開発では三井不動産を示している。



具体性のない回答に対して会場からは、怒りの声とため息が多く聞こえました。「老朽化を理由に、神宮球場と秩父宮ラグビー場を建て替え、超高層ビルを新たに 2 棟建てるのが目的で、緑の整備というのはそのための言い訳であり、伊藤忠、三井不動産の利益がからんでいることは明白」になったヒアリングと思いました。

新建東京支部では、今年の 2 月に「秩父宮ラグビー場と神宮球場の現在地での再生提案」を発表し、4 月の発表会には多くの人がつどい、賛同を得ました。改めて声を大きくして再開発をストップさせる運動の重要性を痛感しました。



20240909 神宮外苑再開発事業者発表について

東京問題研究会 石原重治

樹木の大量伐採などが批判されている明治神宮外苑地区再開発について、事業者代表の三井不動産が「2023年9月12日に東京都からの要請を受け、施設計画の工夫等及び既存樹木の2023年の調査結果を踏まえた細部にわたる検証を行った上で、事業者間での協議を重ねて、伐採本数の削減とともに、新たなみどりの創出に向けた緑化計画の見直し案をとりまとめ、東京都に報告した。」とする*文書を公表しました。また、9月28日には、新宿区と港区の住民などへの説明会も開催するとのことでした。

* 1) 神宮外苑地区まちづくりにおける樹木の更なる保全と新たなみどりを創る取組みについて

2) 同 補足資料

また、参考資料として、次の文書をご覧ください。【神宮外苑】0909事業者の見直し案を受けて～問われているのは本数ではなく「樹木保全の質」 Rochelle Kopp 日本

なお、今回の事業者側の説明は「1) 施設計画の工夫等による伐採本数の削減等及び新植本数の増加により、再開発後の樹木本数が400本増加し、2304本となる 2) 新野球場棟のセットバック幅を約10.3m拡大し、約18.3mにする方針」としてありますが、説明資料(上記の*1)・2)を見ても、ラグビー場の位置変更や形状、また野球場棟の位置がどう変わるのか、隣接するホテル棟の計画に変更があるのか等も明示されていないので、事業者側の言うところの「再開発後の樹木本数の増加」が本当なのか、検証できません。

新建東京支部(東京問題研究会)は、これまでの経緯として

1) 神宮外苑の大規模再開発の再考を求める 新建東京支部幹事会声明(20220303)『建まち』5月号

2) 神宮外苑再開発に対する見解と神宮の森の歴史と文化を継承する再生整備の提案

東京支部(20220708)及び記者会見(20220803) 『建まち』9月号

3) 秩父宮ラグビー場と神宮球場の現在地での再生提案(20240227) 及び発表会(20240410)

『建まち』6月号

など、神宮外苑再開発事業に関する基本的な考えかたをしめした声明、見解と提案、現在地での再生提案を行うなどして、幅広い方々から賛同と好評をいただいています。

また、9月17日(火)午後には、神宮外苑再開発計画見直し案について「JSC(日本スポーツ振興センター)公開ヒアリング」がありました。その際に「秩父宮ラグビー場」の老朽化の判断についても言及があり、この件については、2024年2月21日に新建東京支部が発表した「秩父宮ラグビー場と神宮球場の現在地での再生提案」の中で次のように記述しています。

「メインスタンドなどの建築は1976年9月完成で築47年であり、適切な改修は十分に可能と考えます。①西スタンド・メインスタンド(1976年築) ②南スタンド(1980年築) ③ラグビークラブハウス(1971年築) ④東テニス場クラブハウス(1967年築) なお、バックスタンド並びに北側スタンドは新耐震基準施行(1981年) つまり現秩父宮ラグビー場は、老朽化には当たらず、適切な部分的耐震補強を施せば、これからも十分に使用出来る耐震化が可能であることが示されています。」市民の間からも「築76年」という表現はおかしい訂正すべきだという声が出ました。

28日の説明会では、事業者側が明らかにしていない施設計画の変更事項や事業計画の見直しや、「老朽化している」ラグビー場築年数の誤魔化しをどう説明するのかなど、本事業に関わる本質的な問題の解明が期待されます。

台風 10 号サンサンの迷走と土砂災害危険レベル 4 発令により避難所で過ごしました の報告その 2

報告 川田綾子(まちづくり研究所)

台風 10 号来襲により、真鶴町の避難所として、真鶴町民センターと町立体育館が指定されました(真鶴町の指定避難所は、この他にひなづる幼稚園園舎、岩ふれあい館体育館の計 4 か所が指定されています)。町民センターでは、1 階の「老人福祉センター」に位置づく「集会娯楽室(和室)」71 m²が避難所として開放されました。空調がきいてテレビもあり、初めて映像で各地の被害状況も知ることができました。私の他に2組が避難されていましたが、1組ご夫婦は一旦帰宅されました。もう1人の方は、近くから歩いてきた女性の方で、お互いのおむすびを交換したり、読書したり、気を遣うことなくひと晩過ごしました。役場職員が2時間交代で待機され、空調調節や毛布の貸出しなど、遠慮なく相談できたことはたいへんありがたく安心できました。

避難指示レベル 4 は変わらず 9/1 夜まで続きましたが、雨が弱まったこともあり 8/31 朝に一旦帰宅しました。

夜間雨や雷の音や崖崩れが起きるかもしれない妄想に怯えることなく、私は安心して眠れましたが、ご一緒した女性は、慣れない雑魚寝で2時間ごとに目を覚ましてしまったとのことでした。



家の裏山(レッドゾーン区域)



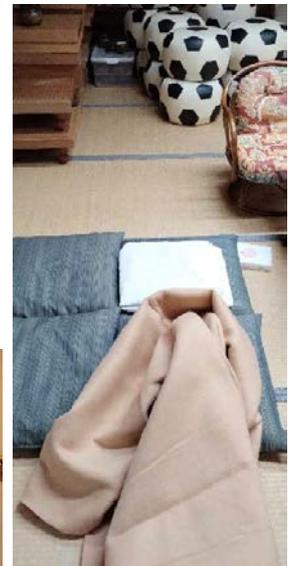
駅の反対側の土砂崩れ(友人撮影)



避難所の和室



毛布は貸出してくれました



座布団を敷いて寝る場所確保

初の避難所体験で気づいたこと・課題を早めにメモしました。今後役場や近隣の方々とも共有し、次なる防災対策につなげたいという思いです。

- ・多数、老若男女が避難してきた時の仕切りやその指示はどうか？
- ・座布団と毛布のみ。数日続く場合、高齢者や身体に不自由がある方、小さな子はどうか？
- ・食事等は基本持参、その情報が行き渡っていたか？
- ・防災の基本はまず自助(自分の身をどう守るか)を日頃から考えておくこと。(まだ大丈夫と先延ばしにし反省)
- ・次に隣近所の近助ともう少し広く共助。想定外が起こるのが災害。どこまで自分の考えを相手に共有してもらうかは警報発令後では難しい。平常時に隣近所で災害座談会で考えをせめて話し合っておきたい。
- ・そして公助。小さな自治体が災害対策にどこまで予算や人員をかけるか難しいと。避難所運営はむしろ住民自治に委ねる考えもあるかも。それにはそれなりの話し合いと準備が必要で誰がどこが指揮をとるか。
- ・公共交通が不通(しかも数日間)となった場合の対処法。

真鶴駅は、JR 東海道本線小田原から2つ西よりで、湯河原へのバスがわずかに数本あるのみです。今回、東海道本線の熱海-小田原間が3日間不通となり、一時的には幹線道路の一部も通行止めがありました。半島は、鉄道と道路が封鎖されると身動きできません。真っ暗な真鶴駅をみて、陸の孤島感が押し寄せました。臨時バスを出せないか、福祉タクシーがまわせるか、など民間事業者や支援団体など公民の協力も検討の1つです。

第 47 回 「地球温暖化について考える」

渡辺政利

異常気象、「今夏も最も暑かった」

今年の夏の気温は実に高かったという実感が体にこびりついています。この記事を書いている9月半ば過ぎになっても日本では昼間の気温が、35°Cを超え40°Cに迫る地域があるなどの異常さです。

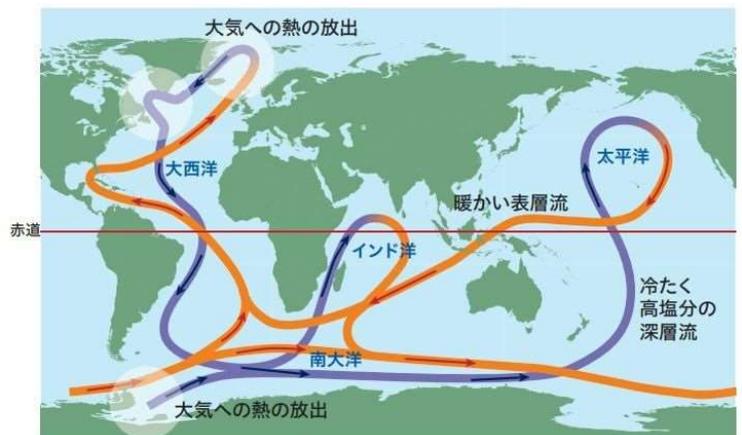
9月3日の東京新聞は『「異常気象」今夏も最も暑かった』という記事を掲載しています。この記事によれば、「今年の6月～8月東日本（関東・東海・北陸など）の平均気温は平年を1.7度上回り、1946年の統計開始以降で昨年夏と並び最も高かった。」これに対して西日本（近畿以西）では「今夏の平均気温が平年を1.4°C上回り、過去最高だった昨年などを抜いて46年以降で最高となった。」としています。この気温データは気象庁の発表のようですが、9月2日に気象庁が開いた異常気象分析検討会（会長・中村尚東大教授）は、「温暖化が気温を底上げしており」「異常気象と言って差し支えない」と説明したとされます。この現象はこの間の各種報道を見るにつけ、日本に限定されたものではなく地球規模の高温化であり、地球温暖化が確実に進んできていることを物語っているものと言えるのでしょうか。この「異常気象」は定常化して「異常気象」でなくなるのではないかと心配になります。

この記事は続いて、平均気温が全国80地点で観測史上1位（タイを含む）を記録したとして平年と比較して横浜市で2.3度、千葉市で2.2度上回り、水戸市で2.4度、埼玉県熊谷市で2.2度上回るなど61地点で観測史上2位となったことを知らせています。東京都心のこの夏の平均気温は26.9度と平年を2.1度上回り、観測史上3位。1位の2010年夏に0.2度の差まで迫ったとも言います。さらに、都市化の影響が大きい大都市圏の暑さを除外した「日本の平均気温偏差」もこの夏、平年を1.76度上回り昨年夏と並んで過去最高であったと記しています。

「破滅か持続か今が岐路」

7月21日付け「しんぶん赤旗日曜版」は「破滅か持続か今が岐路」という記事を「気候の転換点 回復不能の危機迫る」を副題として編集しています。現在のような高気温の日々が続くと地球上の気候全体がどのように変化してしまうのだろうか心配になりますが、この記事はそのことに焦点を当てています。

この記事のテーマは「気候の転換点」です。気候の転換点とは、「気温上昇がある臨界点を超えると地球全体や地域的に劇的な影響を及ぼす気候危機（地球温暖化）」のことを指し回復不可能に陥ることを言います。「この問題の研究を続けるD・A・マッケイ博士（英エクセター大学）らの研究グループは米科学誌『サイエンス』（2022年9月9日）に『1.5度を超える地球温暖化は複数の気候の転換点を起こしうる』と言う表題の論文」を発表、「気候の転換点」となり得る16の問題を気温上昇程度の区分に分けて指摘したと言います。この記事では世界地図上に発生するであろう場所を示しながら16の問題を指摘していますが、ここでは紙上に掲載された地図から読み出して簡単に整理してみたいと思います。



海洋循環図

(地球規模の影響を持つ問題)

(2度未満の上昇でも危険)

- グリーンランドの氷床崩壊（淡水の10%を占めるグリーンランド陸上の氷床が溶け出す。全部溶け出すと海面水位は7メートル上昇）
- ラブラドル・アーミンガー海の深層対流崩壊（カナダ東部大西洋を南に流れ、一部が深層に潜り、全海洋をめぐる深層海洋循環の起点のひとつとなっている）
- 西南極の氷床融解（西南極は、南極大陸を鳥の巣ごもりの形に見なしたときくちばしのある頭側。アメリカ大陸側）

(2~4度上昇で危険)

- アマゾン熱帯雨林の衰退（2050年までに森林の半分が壊滅的打撃を受ける恐れ）
- 東南極の氷河融解（東南極は、南極大陸を鳥の巣ごもりの形に見なしたとき胴体側。アジア・アフリカ側）

(4度以上上昇で危険)

- 北極の冬期海水崩壊
- 大西洋深層循環の崩壊（南米カリブ海からメキシコ湾を通りヨーロッパ西側を経て流れる暖流が北極海に至って冷やされ、グリーンランド南で沈み込む海水循環）
- 東南極の氷床融解

(地域的影響)

(2度未満の上昇でも危険)

- ノルウェー北側のバレンツ海・海水の突然の消滅
- インドネシア・東ティモールなど低緯度地域のサンゴ礁の消滅
- カナダ北方永久凍土の突然崩壊

(2~4度上昇で危険)

- 南アメリカアンデス山脈など高山氷河の消滅
- サヘル・西アフリカモンスーン地域の植生変化

(4度以上上昇で危険)

- カナダなど・北方森林の北への拡張
- ロシアオホーツク海寄り・北方森林南部の衰退

「15年の国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP21）は、気候変動を防ぐため、地球の気温上昇を産業革命前比1.5~2度未満に抑えるべきだとするパリ協定を採択」しましたが、サイエンス論文は「この範囲内の温暖化でも、グリーンランドと西南極の氷床の崩壊、低緯度サンゴ礁の死滅、永久凍土の急激な融解」など6つの気候転換点が発生する可能性が高いと指摘しているとのこと。

『サイエンス』論文は、1度以上の気温上昇でも1.5度未満ならば、地球は安全な気候状態を維持している可能性があるが、『1.5度を超えると、特に主要な氷床で、複数の気候の転換点を超える可能性が高い』と指摘。『2~3度の温暖化をもたらす現在の政策は、複数の気候の転換点を引き起こす可能性が高いので安全ではない』と警告しています。

「英エネルギー研究所（E I）が6月20日に発表した『世界エネルギー統計レビュー』23年度版によれば、エネルギー由来の温室効果ガス排出量は23年に初めて40ギガトンを超え、過去最高となり」「再生可能エネルギーが世界の発電量の30.1%に達する一方、化石燃料は依然60%を占めています」と書いています。

今年の夏の地球の気温は平年より1.5度上昇を超えてしまったのではないかと、そして「気候の転換点」は既に始まっており、もう元には戻れないのではないかと不安になりますが、それにも関わらず日本政府は火力発電利用継続を目指し、温暖化への言い訳として危険で廃棄物処理のめどが立たない原子力発電を押し出しながら再生可能エネルギーへの電力の転換に消極的です。

つづく

鋸屋根に魅せられて

群馬県富岡市 写真家 吉田敬子

群馬県にある片倉工業富岡工場（旧官宮富岡製糸場）を撮影したくて訪ねたのは、2002年でした。撮影は許可されず残念でした。諦めきれず周辺を探索すると、上信電鉄沿いに見えました。「鋸屋根です！」落胆気味の私は目を疑いました。美形で綺麗です。訪ねると敷地内には、7連と4連の鋸屋根工場があり驚きました。受付でいきなり「工場を撮影させて下さい。」と燃えていました。受付の人は困惑顔で「少々お待ちください。」数分後「こちらで話を伺います。どうぞ」と案内され、名刺交換から始まり「私は全国に残る、鋸屋根工場を撮影しています。鋸屋根は日本の産業を築き上げてきた証です。富岡市の鋸屋根を撮影させて下さい。」と話す。「弊社の取材ではなく屋根の撮影をしたい。とは珍しい。貴方の熱意に負けました。いいですよ。」と許可を頂き撮影開始です。大型カメラ（4×5判）での撮影に驚かれ「いい物を見せましょう。」と事務所の2階に案内されました。屋根の鬼瓦を指さし「建物の詳しい事はわかりませんが、瓦にSとあるでしょう。あれは工場開設が昭和33年（1958）で昭和のSです。先代のこだわりなのです。」と微笑みました。私は大きくなずき言いました「この鋸屋根工場を見た瞬間感じました。先代さんは工場建設に特別な思いを抱いていたように思います。いい物を見せて頂きありがとうございます。」すると「本当に好きなのですね屋根が。」「はい！」と苦笑いでした。その後、富岡市の歴史に詳しい恩師今井幹夫先生に写真と内容を送りました。

(株)ヨコオ精密部品 7連木造鋸屋根工場：2002年撮影





「よく見つけたなあ、さすが鋸屋根写真家だ。建物はヨコオ製作所七日市工場の鋸屋根です。創業者の簡単な年譜を送ります。お役に立てば幸いです。」と即答でした。今井先生は市の歴史文化や、富岡製糸場の研究を長年続け、世界文化遺産登録へ導いた恩師です。「吉田さんの写真は力があるね。鋸屋根調査も続けて下さい。」と、いつも穏やかに接して頂きました。(今井幹夫 2024年1月25日逝去) 今井先生から届いた「横尾忠太郎の年譜」を短く紹介します。

明治27年(1894)横尾家の長男・横尾忠太郎は、群馬県北甘楽郡富岡町字曾木そぎに生まれる。明治42年(1909)富岡尋常高等小学校卒業後、東京のタグ屋へ奉公に出る。タグ屋とは、直径1ミリ以下の精密な金属パイプをつくる職人です。忠太郎はひたすら精密パイプ加工の腕を磨いた。職人として15年間培った技術を活かし、大正15年に精密パイプ加工工場開業。昭和3年(1928)腕時計用のバネ棒を発明し生産開始。私たちが腕時計のベルトを簡単に交換することができるのは、このバネ棒のおかげです。現在でも全世界で製造されるほぼすべての腕時計に使われています。横尾忠太郎は金属パイプ加工の知識とアイデアを活かし、新製品を発明・開発した。代表的なバネ棒と、躍進の原動力となったのが「ロッドアンテナ」です。

昭和21年(1946)群馬県富岡市に本拠移転。仲町工場を開設。昭和26年(1951)株式会社横尾製作所取締役社長に就任。東京都北区に東京営業所を開設。昭和31年(1956)携帯ラジオのロッドアンテナの生産開始。昭和33年(1958)富岡市七日市工場を開設(鋸屋根工場)

トランジスタラジオの普及により、ロッドアンテナの需要が急増した。昭和30年代に入ると、富岡市は、明治5年(1872)富岡製糸場開設以来、繊維の町から産業は転換期を迎えていた。昭和36年(1961)神農原工場を新設し、地域雇用の促進に貢献した。郷土愛あふれる事業家としての、横尾忠太郎の決断でした。この年、富岡市の電気機器製造業の製品出荷額が繊維製品すがすがを抜いて第一位になる。私が訪ねた七日市鋸屋根工場は美形で清々しく、働く人々の心を癒し貢献したのであろう。横尾忠太郎は工場建築にもこだわりを見せていた。天晴!

七日市の鋸屋根工場は現存せず。この歴史は写真に収めました。

新入会員歓迎会の報告

9月27日（金）18時30分から21時30分 住まい・まちづくりデザインワークスで、今年の春以降に入会された武市望奈代さん、寺脇智史さん、笹原和樹さん、済藤哲仁さんの歓迎会を開催しました。

参加されたのは、武市さん、寺脇さん、笹原さんで、済藤さんは仕事で残念ながら欠席でした。

近年コロナ禍の3年ぐらいは、集まることもできず、引き続きオンライン会議も増えていて、飲み会も減っていました。

また、新入会員がまとまって入会していただけたという状況がなかったので、ほんとうに楽しい、話が尽きない時間になりました。

乾杯は代表幹事の千代崎一夫さん、閉会のあいさつは岡田昭人さん、他参加者は石原重治さん、小林良雄さん、杉山昇さん、木村美千代さん、高田桂子さん、柳澤泰博さん、山下千佳でした。

まずは、参加者の自己紹介を兼ねたお話からスタートしました。ひとりひとり話したいことがあふれ出て、何度も「1分！」とコールがありましたが、あともう一言と話が続きまして。でも、お互いを知る「そうなんだ」という認識をすることも多かったです。

入会された3人の方のお話は、フレッシュで、世代の違いもまた、ウキウキする内容で、支部の活性化にもつながると感じました。

武市さんにはホワイエ8月号に書いていただきましたが、引き続き書いていただくお願いをしました。

寺脇さん、笹原さん、済藤さんには会員のページへ自己紹介をお願いしました。みなさんこれからもどうぞよろしく願いいたします。 by.山下千佳



奥) 寺脇さん 渋谷区にある工務店の代表者
中央) 笹原さん 建交労東京本部に勤務
手前) 武市さん (株)象地域設計に勤務 意匠設計

ドイツ流「まちを創ること」のすすめ

一住民参加の日独比較



日時：11月9日（土）14:00～16:30（開場 13:30）

参加費：無料

場所：立教大学 池袋キャンパス 10号館 X304

豊島区西池袋 3-34-1 「池袋駅西口」より徒歩10分 「要町」6番出口より徒歩5分

講演：水島 信氏（バイエルン州建築家協会登録建築家）

あなたの身近なところで、どんなことが起きていますか？

商店街に超高層マンションが建設され、雨にぬれずに買い物ができるアーケードが解体されました。東京を代表する景観といわれる神宮外苑のイチョウ並木の伐採や市民に親しまれているラグビー場や野球場が、利益最優先の場所と変わろうとしています。「再開発」と称して、住民の意向に沿わない「まち壊し」が進められているなかで、私たちは「住民参加のまちづくり」とは本来どういうものかを学び、孫子の代まで良い環境とまちを受け継いでいきたいと思います。

水島信氏は40年以上ドイツで建築家としてのキャリアを積んで来られ、長くミュンヘンに在住し、「こども目線によるまちづくり」を実地で学ばれました、都市計画を重んじるドイツだからこそ見えてくる都市デザインの課題、住民参加のまちづくりのあり方、市民と行政や社会との関わりについて、ドイツで都市計画、建築設計、まちづくりに携わってきた視点で講演していただきます。



10号棟3階です。エレベーターがありません。

主催：立教大学文学部教育学科

共催：新建築家技術者集団東京支部

お申込みフォーム <https://nu-ae.com/tokyo/241109-form/>

【お問合せ】立教大学文学部教育学科 和田悠 TEL090-5765-4390 メール yuwada@rikkyo.ac.jp

新建東京支部 山下千佳 TEL03-3260-9810 メール shinken-tokyo@group.email.ne.jp

建国記念日79周年(1)

9月2日はベトナムの建国記念日(国慶節)です。今から79年前の1945年9月2日、故ホー・チ・ミン主席が「独立宣言(Tuyen ngon doc lap)」を発表し、ベトナム民主共和国(Viet Nam Dan Chu Cong Hoa)が成立。東南アジア初の社会主義国家が誕生しました。

9月2日はベトナムの祝日で、2024年最後の祝日でもあります。2019年に国会で可決された改正労働法が2021年1月1日に施行されたことに伴い、2021年から建国記念日の祝日の日数が2日間となり、今年は8月31日(土)から9月3日(火)までの4連休となっています。

建国記念日に際して、ベトジョー(VIETJO)から、建国記念日や故ホー・チ・ミン主席に関する記事8本のうち、ここでは2本をご紹介します。

建国記念日～ベトナムの9月2日～<https://www.viet-jo.com/howto/basic/424>

ベトナム語で建国記念日のことを Ngày Quốc khánh(ガイコックカイン、国慶の日)と言います。ベトナムの各祝日の中で最も重要な祝日に位置づけられています。

ベトナム民主共和国建国までの流れ

ベトナムはフランスによって植民地化され、約60年間にわたりフランスの完全支配を受けていましたが、第二次世界大戦中に宗主国フランスがドイツに破れ、フランスに親ナチスのヴィシー政権が誕生すると、ヴィシーと手を結んだ日本が1940年にベトナムへ進駐。ベトナムはフランスと日本の二重の支配を受けることとなります。

フランス軍と日本軍に対抗すべくホー・チ・ミン氏らが結成したベトナム独立同盟会(Việt Nam Độc Lập Đồng Minh Hội=越南独立同盟会、略称:ベトミン)は、日本と交戦中の米国や中国から支援を受けつつ、仏日両軍を相手にゲリラ戦を展開していきます。

そんな中、1944年10月から翌年5月にかけて、ベトナム北部で大規模な飢饉が発生。40万人から200万人が餓死したとされています。天候不順の凶作に加え、空襲で南北間の輸送が途絶えていたこと、フランス植民地政府や日本軍の食糧挑発などが重なったことが原因。飢饉に対して何の対応も取らなかったフランスと日本に対するベトナムの人々の感情は最悪なものになります。

1945年3月9日、日本軍はフランス植民地政府を打倒し、ベトナムを完全な支配下に収めます(仏印処理)。そして、フランスの庇護下で存続していたベトナム王朝の阮朝が日本への協力を約束して、ベトナム帝国を樹立します。

しかし、日本の敗戦がほぼ決定的となると、ホー・チ・ミン氏は8月13日、総蜂起の指令を発出。日本の無条件降伏を受け、ハノイ市でベトミン扇動の大衆デモが起こり、武装蜂起へと発展。19日にはベトミンがハノイ市にある政府機関の制圧に成功しました。これが、8月革命です。この人民蜂起はフエ、サイゴン(現在のホーチミン市)に拡大、8月30日にベトナム最後の皇帝バオダイ(保大帝)が退位します。

そして、日本政府がポツダム宣言に調印した9月2日、ベトナムではホー・チ・ミン氏がベトナム民主共和国の独立を宣言しました。ベトナム民主共和国誕生の瞬間です。

しかし、この僅か1年後にはインドシナ戦争が勃発。南北分断、そしてベトナム戦争と、ベトナムに真の平和が訪れるまでの道のりは遠いものでした。

独立宣言の中には、「日本」がたびたび登場する

ホー・チ・ミン氏が読み上げた独立宣言は、アメリカ独立宣言やフランス人権宣言を引用しながら、世界に向けてベトナムが自由で独立した国となったことを宣言したのですが、それに至る過酷な道のりを述べた文の中には「日本」がたびたび登場します。「日本のファシストがインドシナを侵略」「フランスは私たちを保護するどころか、5年の間に2回も私たちの国を日本に売った」「私たち民族は、フランスの手からではなく日本の手からベトナムを取り戻した」…。この独立宣言の内容を、日本人は知っておくべきかもしれません。

アジアニュースNo.21
(ベトナム中心) TN



独立を宣言するホー・チ・ミン主席

なぜ、9月2日が選ばれたのか

なぜ9月2日が選ばれたのか、ホー・チ・ミン氏が公に語った記録はないようですが、ベトナム語版ウィキペディアに掲載されていた内容を紹介します。

8月革命が成功した8月19日以降、ホー・チ・ミン氏らはいづ独立を宣言するかを話し合っていました。8月25日や8月28日といった意見が出る中、9月2日にすべきと提案したのは、ホー・チ・ミン氏専属の医師でカトリック信者だったヴー・ディン・トゥン医師だったそうです。ホー・チ・ミン氏が「なぜ9月2日なのか」と尋ねると、トゥン医師は、9月2日は日曜日で皆が休めるし、その日はベトナムカトリック教会にとって重要な「ベトナム殉教者の祝日」に当たっていて、カトリックの各団体がすべて顔を揃えるため、式典後の会議に参加しやすい、と説明しました。

ホー・チ・ミン氏は8月22日にハノイ大聖堂を訪問。ベトナム殉教者の祝日に向けて準備をしている信者たちの様子を見ながら、「この日にすればさらに意義深くなる」と言ったそうです。そして9月2日、独立宣言が行われました。

建国記念日には何をする？

建国記念日は国の祝日にあたり、国は建国記念日の行事を行い、テレビでは当時の映像や写真が繰り返し放映されます。

一般の人々にとっては、その年最後の祝日になりますので、お休みを最大限楽しむ気持ちが強く、娯楽施設はどこも満員になります。都市部で夜打ち上げられる花火も楽しみの一つです。

【右の写真:ベトナム民主共和国の旗】

第1次インドシナ戦争終結後、ジュネーブ協定によりベトナムが南北に分断された翌年の1955年、北ベトナムと呼ばれるようになったベトナム民主共和国は、国旗の五芒星のデザインをスリムに変更します。これが、現在の国旗まで受け継がれています。

南北に分断されたことで、1960年に南ベトナム政権に対抗する勢力「南ベトナム解放民族戦線」が結成されます。この解放戦線が使用した旗が下の2つに塗り分けられた旗です。

【右の写真:南ベトナム解放民族戦線の旗】

ハノイ市で3代にわたりベトナム国旗の縫製を家業としているトゥオンティン郡レロイ村トゥーバン村落(lang Tu Van, xa Le Loi, huyen Thuong Tin)在住のグエン・バン・フックさん(45歳)は、200枚の国旗を丁寧に包み、自宅から約10km離れた郵便局まで雨の中バイクを走らせた。9月2日の建国記念日に間に合うよう、西北部地方ソラ省へ送るためだ。

(2021.9.12 VIETJO 記事)



住む人・使う人の立場で、
住まいづくり、まちづくりを
すすめています。



共同建替え「アリアシア鳩ヶ谷」

〒124-0001
東京都葛飾区小菅4-22-15
TEL : 03-3601-6841
FAX : 03-3601-6944
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp
http://www.zo-3.info

株式会社 **象地域設計**

新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

住み続けられる



株式会社
まちづくり研究所

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

住む人に、環境に、優しく・・・
さらに美しさをお届けする

ルナファーター

五感で味わう心地よい空間・・・

ルナファーターは、環境保護先進国「ドイツ」で広く普及している塗装下地壁紙。通気性や透湿に優れ、結露やカビの発生を抑えます。紙のパターンと塗装色の組み合わせで、お部屋の演出は思いのまま。模様替えやメンテナンスもそのまま塗り重ねるだけでOK。(10回程度可能) 廃材もほとんど出ないので、環境に優しい材料です。



(輸入元)日本ルナファーター(株)
東京都港区南青山2-9-3
青山JPビル 2階
TEL 03-5785-2750

施工店(有)ルナファーター・テクノ
東京都練馬区関町東1-28-9
NPRビル内
TEL 03-6904-7666
TEL 03-6904-7888

※ルナファーター・テクノの住所
が変わりました。

新協建設工業株式会社

平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3
台東支店 (台東)台東区台東2-25-10
西東京支店 (多摩)日野市神明4-22-13
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11
石川支店 金沢市法光寺町207-4
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL03-3836-2011 FAX03-3837-8450
TEL03-3678-7471 FAX03-3678-7472
TEL03-3836-2017 FAX03-3835-7380
TEL042-584-7508 FAX042-584-7581
TEL072-229-2873 FAX072-229-2874
TEL076-257-2535 FAX076-257-2570
TEL082-872-1727 FAX082-872-1728